健康福祉学専攻・博士前期課程

教育理念・目標

健康福祉学専攻博士前期課程では、複雑な現代社会における人々の社会生活上の困難や問題の解決・緩和・抑止・予防をはかる社会福祉学の原理や仕組み、政策と実践等に関する体系的な知識、関連する隣接領域の知識の学修を通じて、多角的な視点から健康と福祉を増進するための研究を行う。こうした観点から生活支援科学の研究能力を培うことを通じて、健康福祉学に関する高度な専門的知識と技能を備えた高度専門職業人を育成することを教育理念・目標として定める。

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

健康福祉学専攻博士前期課程は、本専攻の教育理念・目標に掲げる、以下に示す能力を身に付け、所定の単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（社会福祉学）または修士（学術）の学位を授与する。

身に付けるべき能力

1. 社会福祉や健康に関する問題点や課題を把握し、専門的な知識・技能を駆使して、グローバル化、高齢化、人口減少社会などによってもたらされる新しい課題解決に向けた実践および教育・研究を遂行する能力。
2. 地域社会の福祉・健康などの問題や課題について絶えず関心を持ち、地域社会の発展のために積極的に関与する能力。
3. 福祉、介護、障がい、医療、保健に関する高度な知識と応用的実践能力を身に付け、自らの研究について日本語や外国語による発表および論文を作成する能力。
4. 豊かな地域生活を創造し、支援ができる高度専門職業人として行動する能力。

【教育課程編成・運営方針（カリキュラム・ポリシー）】

教育課程編成の方針

本専攻教育課程では、複雑な現代社会で人々の健康と福祉を増進する社会福祉学の原理や仕組みを多角的な視点から学び、関連する領域の専門的知識・技能および研究能力を修得できるよう適切に科目を配置する。

1. 生活支援科学の研究手法、隣接領域等に関する科目から健康福祉学の基礎が学べるよう配置する。
2. 健康と福祉を増進する支援を多角的に分析・検討・考察できるように設定し、豊かで実践的な視点を養い、生活支援専門職の実践力を高めるよう工夫する。
3. 研究指導により修士論文を作成し、健康福祉学の研究能力を培うように設定する。

教育課程運営の方針

本専攻では、4つの領域(1)共通（必修）1科目、(2)基礎分野7科目、(3)展開分野9科目、(4)研究指導1科目として配置された合計18科目のなかから、必修科目4科目を含む合計30単位を最低限履修することを要件としている。履修においては、健康と福祉を増進する支援の実践に必要な知識・技能および研究能力等が、カリキュラム体系の中でどのように養成されているのか科目系統図等で明示している。

【入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）】

本専攻は、専門分野の学理を探究したいと希望する者とともに、多角的な視点から実践研究を行うことを希望する者にも門戸を開いている。本専攻は入学者選抜にあたって、以下の要件を満たすものを積極的に受け入れる。

1. 人々が営む生活や、その人々が生活する地域や社会に強い関心を持ち、社会福祉や健康に関する学問的基礎知識のある者。
2. 健康と福祉を増進するための高度な専門的知識と理論・技能を修得して、研究活動や実践活動を通して社会に貢献したいと考えている者。